



生産中止のSCSIタイプ FDD（フロッピーディスク） に置き換わる 完全互換記録媒体の紹介

【お問合せ先】

株式会社 協同インターナショナル

<http://www.kyodo-inc.co.jp/>

〒216-0033 神奈川県川崎市宮前区宮崎2-10-9

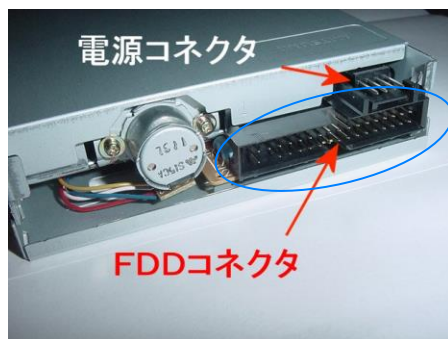
TEL:044-852-7575 FAX:044-854-1979

email:denshi@kyodo-inc.co.jp

半導体製造装置に標準搭載されている FDDとは？

代表的な半導体製造装置（主にスパッタリング、CVD）などに標準搭載されているFDDは、一般市場で購入可能なFDDではなく、既に**生産中止**となっているSCSIタイプのFDDです

一般的なFDD

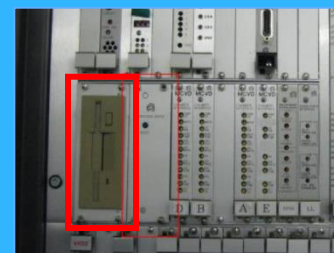


ATAPI通信規格
(34pinコネクター)

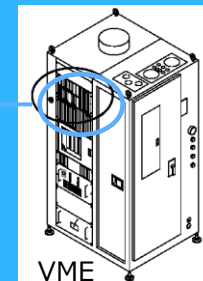
SCSIタイプFDD (主要装置メーカーA社 装置標準搭載)



生産中止



FDD取付位置
(主要スパッタリングE、
主要CVD装置C)



VME



FDD取付位置
(主要CVD装置P)

SCSIタイプFDDが抱える問題点

1. 生産中止 ⇒ 入手困難な状況発生

FDドライブ
(SCSIタイプ)



生産中止

3.5"フロッピー
(メディア)



生産中止

2. アクセススピードが遅い ⇒ データバックアップに時間が掛かる

※レシピ、シーケンスなどのデータファイルが多いほど、バックアップに時間が掛かる
(1時間以上かかる事も一般的)

3. よく壊れる事がある ⇒ ユニットが認識されなくなる不具合が発生

※装置立上げをただけでユニットが壊れることも多いと聞くと、代品の入手が困難な状況

主要半導体製造装置向けSCSIタイプ CF（コンパクトフラッシュ）ユニット のご提案

SCSIタイプFDD完全互換CFユニット



1. 取付簡単

※取付は至って簡単！装置改造や設定変更は一切不要

2. 操作方法はFDDと全く同じ

※データの書き込み・読込みの作業は、FDDと同じコマンドでオペレーション

3. 驚異のアクセススピード

※FDDと比較して、桁違いにアクセススピードが早い
データのバックアップ時間が大幅短縮⇒作業効率UP

※バックアップ時間の短縮例 ： FDD／約60分 ⇒ CF／約3分



SCSIタイプFDD完全互換
CF（コンパクトフラッシュ）ユニット

Model : ACD-73100

完全互換と言える訳：

※標準搭載FDDモデル「TEAC社FC-1」と同じプロダクト名に設定
装置boot-up時、BIOSが認識するユニット名は「FC-1」となります

実機搭載写真



日本国内においても実機搭載実績が増えてきました。
ご使用頂いているお客様には、データアクセススピードの速さや、製品の使いやすさに高い評価を頂いております。



CVD装置への取付例

※148mm専用取付金具（オプション品）を使用して取付けます



スパッタリング装置への取付例

※標準付属品の金具で取付けます

CFユニットのインストール手順



(装置電源OFF)



1. 純正FDDの取外し



2. CFユニットのD/S設定
※SCSI ID設定、ターミネーター（終端抵抗）設定



3. CFユニットの取付け



(装置電源ON)



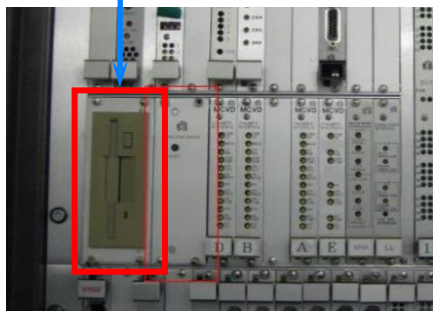
4. CFメディアのフォーマット



1. 純正FDDの取外し

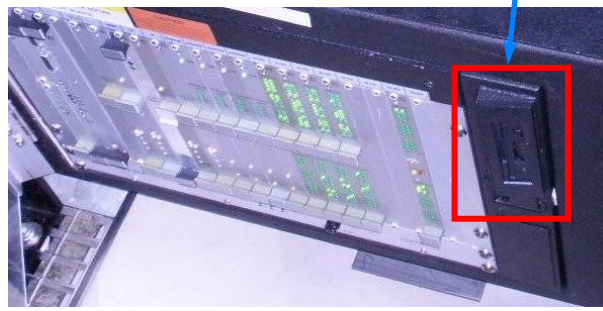
◆まず、装置電源をOFFにした状態で、純正FDDに接続されているSCSIケーブル（50pinフラットケーブル）と、電源ケーブルを外し、純正FDD本体を装置から取外して下さい。

純正FDD



主要スパッタリング装置E、
主要CVD装置Cの場合

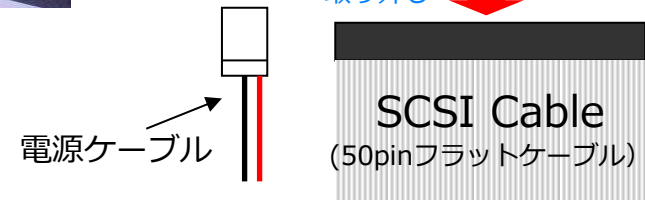
純正FDD



主要CVD装置Pの場合



取り外し



その際、純正FDDがSCSIケーブルのどの位置に接続されているか確認して下さい。

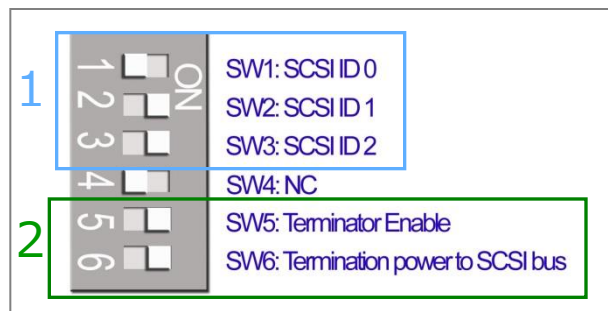
※ケーブルの末端のコネクタに接続されているか？ それともケーブルの中間にあるコネクタに接続されているか？ この接続位置にあわせて、次ページのD/S設定を行います。

2. CFユニットのD/S設定

CFユニットの底面にあるD/S（ディップスイッチ）の設定を行います。

1. SCSI IDの設定（SW1、SW2、SW3の設定を行います）

通常、メジャーどころの半導体製造装置の場合は、SCSI IDを「1」に設定します。



ID	0	1	2	3	4	5	6	7
SW1	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON
SW2	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON
SW3	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON

※ SCSI IDを「1」に設定する場合は、SW1をON、SW2と3をOFFにします。
左図（D/Sの図）は、SCSI IDが「6」の場合です。ご注意ください。

2. ターミネーター（終端抵抗）の設定（SW5、SW6の設定を行います）

SCSIケーブルの接続位置にあわせて、D/Sの設定をします。

ケーブル末端のコネクターに接続する場合



SW5 : ON
SW6 : ON

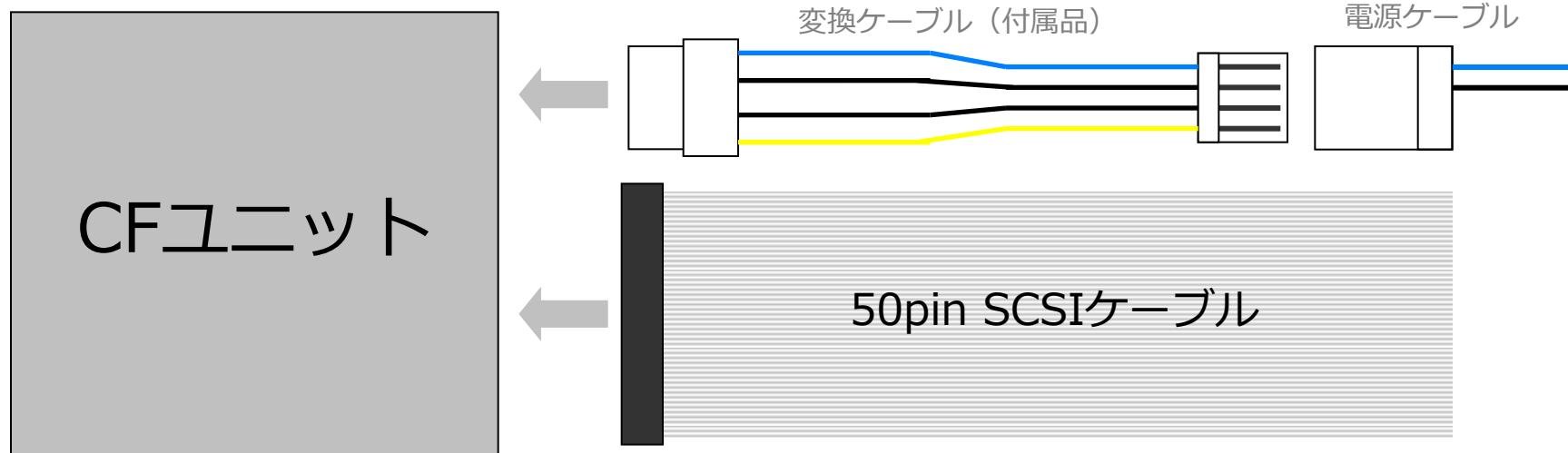
ケーブルの中間コネクターに接続する場合



SW5 : OFF
SW6 : OFF

3. CFユニットの取付け

- ◆ CFユニットにSCSIケーブルと、4pin電源ケーブルを接続し本体を装置に取付けます。
※電源ケーブルは、付属の変換ケーブル（4pin小→4pin大）を使用して下さい。



※CFユニット本体の取付け

CVD装置Cやスパッタリング装置EなどのVMEラックの場合は、付属の128mmパネルをCFユニット本体に取付けて下さい。CVD装置Pの場合は、別売りの148mmパネルを使用すると綺麗に取付ける事が可能です（写真参照）。

CFユニットを装置に取付後、装置の電源をONにして装置がユニットを認識しているか確認して下さい。装置画面に、ユニット名「FC-1」と表示されれば認識されています。

4. CFメディアのフォーマット

CFユニット（ACD-73100）には、6枚のCFメディアが付属しております。

A社製装置の場合は、FDDと同じ1.44MBの容量しか認識出来ませんので、まずはじめに、付属のCFメディアを“format U2:”コマンドでフォーマットします。

※CFメディアのフォーマットは数秒（3秒程度）で終了します。

フォーマット終了後、これまで使用されていたFDと同じ方法でご使用下さい。

< インジケータの説明 >

電源 インジケータ (緑色)	アクセス インジケータ (琥珀色)	CFメディア状態 インジケータ (赤色)	CFユニット状態
ON	OFF	OFF	CFメディアが正常に動作中
ON	OFF	ON	CFメディアが挿入されていない。 もしくは、メディアが異常(FAIL)となっている
ON	ON/Flash	OFF	CFメディアがアクセス中

一台試しに使ってみませんか？

- ・ 製品取付け & 立上げが非常に簡単！
- ・ 複数の装置に簡単に付替えが可能！



よって、

必要な時に本製品を取付けてデータのバックアップが可能です。

注) 対応機種： 一部の装置メーカー用スパッタリング、CVD装置限定
装置停止前などのデータバックアップ作業が大幅に短縮出来ます。